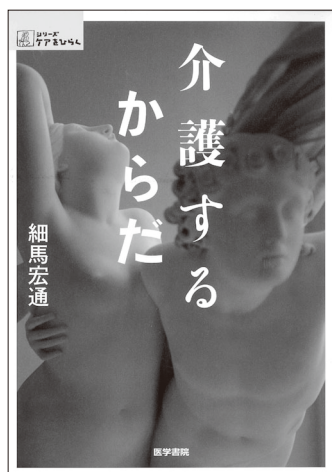


シリーズケアをひらく 介護するからだ

著：細馬宏通
発行：医学書院(TEL.03-3817-5600)
定価：2,000 円＋税

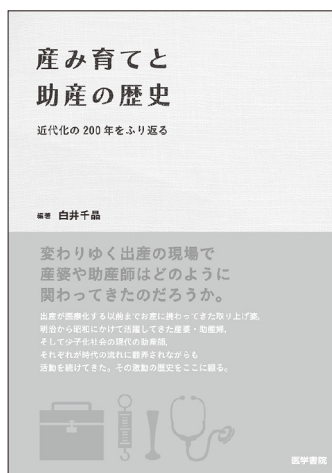
『訪問看護と介護』誌で好評を博した連載の待望の書籍化。人間行動学者として著名な著者が、ケアの現場のベテランワーカーのさまざまな対応をビデオで分析。複雑な相互作用で入り組んだ現場は驚きと発見の連続に満ち溢れ、そこからいったい、どのような「からだ」がみいだされたのか。さまざまな暗黙知が言語化されていく。そのプロセスはリアルで深い。実践者も研究者も括目する必携の1冊。



産み育てと助産の歴史 近代化の200年をふり返る

編著：白井千晶
発行：医学書院(TEL.03-3817-5600)
定価：2,800 円＋税

産み育ての現場の史料を丁寧にひもとくとき、日本人のお産の200年をふり返る。江戸末期のお産を通して見える人々の生命観、身体観、明治初年の産婆取締と医療制度に始まるお産の近代化。そして戦争の時代へ。お産にかかわる専門職の仕事の変遷は、日本の女性の「産み育て」を映す鏡である。現代の日本の社会に、「生み育て」のありようの是非を問いかける。



がん疼痛緩和の薬がわかる本 第2版

著：余宮きのみ
発行：医学書院(TEL.03-3817-5600)
定価：2,200 円＋税

初版から3年、新たな薬剤についての詳細な解説はもちろん、初版同様「難しいことを易しく理解できるように」のコンセプトのもと、痛みの基本知識とがんの痛みの特徴、痛みの性状の評価など、臨床現場で何をすればよいのかが「わかる本」。各論では、それぞれの薬剤について詳述され、使用方法や患者への説明に関しても丁寧に伝わる。がん診療にかかわるすべての人に。



「こつ」と「スランプ」の研究 身体知の認知科学

著：諏訪正樹
発行：講談社 (TEL.03-5395-4415)
定価：1,800 円＋税

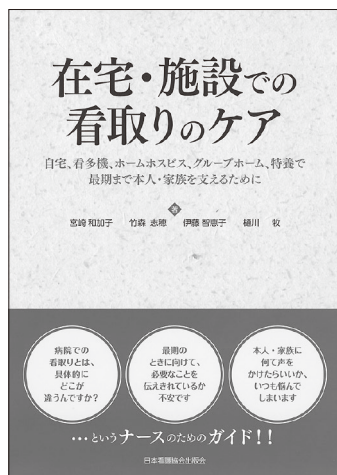
著者は、体で覚える学びの理論「からだメタ認知」の提唱者。「学びは、こつの体得とスランプの繰り返し」との認識から、身体知の言語化と、獲得した理論の身体化を結び付け、進化させることの重要性を説く。看護実践はまさに身体知であり、その探究はいま、これまで以上に深められつつある。さらなる深化に向けた絶好の書。



在宅・施設での看取りのケア

著：宮崎和加子，竹森志穂，伊藤智恵子，樋川牧
発行：日本看護協会出版会 (TEL.0436-23-3271)
定価：2,200 円＋税

病院以外での高齢者の看取りについてのガイドブック。自宅、看多機、ホームホスピス、グループホーム、特養と、高齢者が最期を迎える場所が多様になった現在、本人・家族の選択と生き方を支えるために、看護職は何をすべきか。最期の時に向かう身体の変化、死への予測と本人・家族の納得を促すための声かけなど、時を追った現場発信のポイントの数々。看取りを支える人たちを支える本。



死すべき定め 死にゆく人に何ができるか

著：アトゥール・ガワンデ
訳：原井宏明
発行：みすず書房 (TEL.03-3814-0131)
定価：2,800 円＋税

作家としても著名な外科医によるベストセラー。「医師として——そして、実際のところ人間としても——医学で治せない病に罹った人を援助する場合に、治せる場合と同じような意味のある経験をできるとは私は今までまったく思わなかった」(本文より)。豊かに生き、豊かに老いた人々が、その人生の最期に向かうとき、医療に何ができるのか。「豊かに死ぬ」ことを支える医療を示唆する注目の書。

